

# 屋島小学校だより No.44 (2008.3.3)

E-mail e-yasima@edu-tens.net TEL 841-1538 FAX 841-1539

URL <http://www.edu-tens.net/syoHP/yasimaHP/>

## “子どものよさを引き出す連携をしましょう”

小学校で教える内容を定めた新学習指導要領の改訂案が発表されました。今月には、その内容が告示される予定です。今後、1年間の周知期間を経て、平成21年度から移行が始まることになっています。こうした見直しや改訂はおおよそ10年ごとに行われてきましたが、今回の改訂でも「生きる力の育成」を引き続き掲げ、知識の習得、活用する力、学習意欲などを身に付けさせるための時間数と内容が増えています。

週あたりの時間数（低学年は2時間、中・高学年は1時間）

低・中学年の国語・体育、低～高学年の算数・理科、高学年の社会、外国語「英語活動」、  
教科内容に追加

各教科で、あらゆる学習の基盤となる「言語力」の育成を図る。論述する力を強化する。

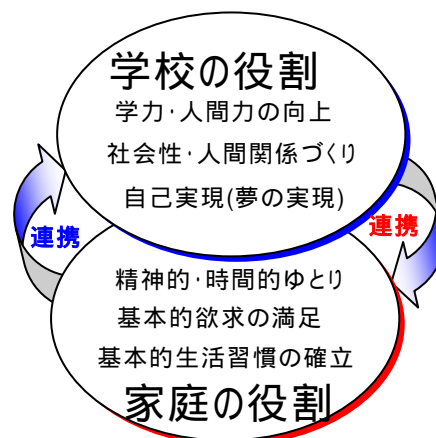
学び方

習得型の学習、応用・活用、探求型の学習などで、思考力や判断力、表現力を培う

今回の改訂の特徴は「言語力」の育成です。この力は、あらゆる学習の基盤となり、考えたり判断したりするもとになるものです。屋島小学校では、昨年度から新指導要領を先取りする形で観察や実験の結果を整理して、友達に説明する学習をしてきました。理科の実験結果を表やグラフにして分かりやすく表現したり、自分の考えを説明したりする学習も行っています。その結果、「考える力」「聞く・話す力」も伸びています。

もう一つの特徴は学習時間や内容の増加です。では“時間と内容を増やせば学力が向上するのか”と言え、そんなに単純ではないようです。国際的な調査では、日本の子どもの学習意欲は低く、家庭での勉強時間も少ないという結果が出ています。また、基本的な生活習慣が乱れ、学習に集中できない子が以前に比べて増加をしています。こうした実態の背景には、以前にも述べてきたように、社会の変化やライフスタイルの大きな変化があり、そのなかで子どもたちは生活し、学習をしてきています。しかし、昔のような生活・社会に戻すことはできません。

そこで、大事なことは学校と家庭・地域との連携です。どのように社会が変わろうとも、学校でしかできない教育があり、家庭でしっかりと身に付けなければならない基礎基本(躰を含む)があります。学校は、その特性を生かして集団でなければできない教育を実施します。家庭は、自由に選択をし、その子の興味関心や意欲に応じてきめ細かい指導や対応(支援を含む)も可能です。また、互いに足りないところを補うことや、必要な時には支援をする体制をとることで、豊かな学びの環境が創られます。



一人ひとりの子に もてる力を発揮させる **学びの環境**を！